

治三年四月八日、百練抄寶治元年四月八日、此勘物入御覽了

〔台記〕久安三年四月八日辛丑未刻參院白重雖無公家灌佛院及高陽院被行之。依出家歟申斜參泉殿率諸即法皇幸此殿灌佛如常余不取布施欲著座依顯遠諭取之參上亦灌佛時酌中央鉢大失也。及昏事了參高陽院余灌佛時覆鉢水霑衣今日破物忌出仕是故多失禮乎欲盡忠已表耻耳。

〔玉海〕承安二年四月十五日癸丑恒例尊勝念誦修之雖祭月不憚之凡祭月神事之法隨人々意趣歟。公家并執柄人之家作法八日無灌佛之時自朔日神事有灌佛者自九日神事也於他家者自御禊日神事但或說執柄家不論灌佛之有無自九日神事云々。

〔長秋記〕大治四年四月八日丙辰依爲初齋院年所々無御灌佛而於女院每年可有此事云々雖當初齋院年有此事但長元ニハ無之歟。

〔年中行事歌合〕十三番 左 大神祭四月卯日

わが君の御代やさかへん新世もおほわの神の祭なりせば

右 賓 灌佛四月八日

唉そめし卯月のけふをかぞふればさかり久しき法の花ぶさ

新中納言申云右灌佛の心少おぼつかなきやうに侍れば左から申べきよし申侍りしを左もおほわのそへ詞もいかゞと人々申て右を猶佛生會灌佛同事にやとてかち侍き。

〔秋苑日涉六〕民間歲節上 四月八日寺院爲俗佛會以益坐銅佛浸以甜茶水^{アマ}_{チャ}千歲^{ミツヤ}漢名^{ミツヤ}覆以花亭隨喜者以小杓灌佛。

〔東都歲事記二月〕八日 灌佛會 諸宗寺院勤行あり本堂中又は境内に花の堂を儲け銅像の釋迦佛を安置し參詣の諸人小柄杓を以て香水を佛頂に澆奉る在家にも新茶を煮て佛に供じ卯の花をさしていたれき又花くそといふ年中行事大成に花供御の誤にやといへり但し京師には涅槃會の團子をさしてかかいふとぞ